



備蓄品アンケートについて

このままでは地域が危ない

成田西町自主防災部会は来るべき災害に備えて居住者の方が実際の程度の備蓄をされているのかをお尋ねし、今後の活動に役立てるために七月に備蓄品アンケートを実施しました。

残念な状態

防災プロジェクトでの検討の結果は、このままでは大規模な災害が起きれば地域が崩壊するとい

基本集計は別表の通りです。回収率はほぼ五割

救援は七日以降

うことです。水・食糧を五〇%（約四分）以上備蓄している方はわずか一四軒、一〇%にも満たないです。あとの九割は備蓄なしであったり、一日〜二日分であつたり、人ごととしかいえない残念な状態でした。

ぐに救援はこないのです。そして避難所には現在二日分の備蓄しかありません。自治会も予算の都合から食糧備蓄はしていません。公的な支援が開始されるのは概ね一週間から十日後と考えていいでしょう。先の能登半島地震では三日後にわずか食糧と水を珠洲市に届けています。県が国の物資シテムを利用しては五日目からで、実際にシテムが稼働したのは十日目からです（内閣府資料）。人口の多い都市部では物資が届くのはいつになるかわかりません。

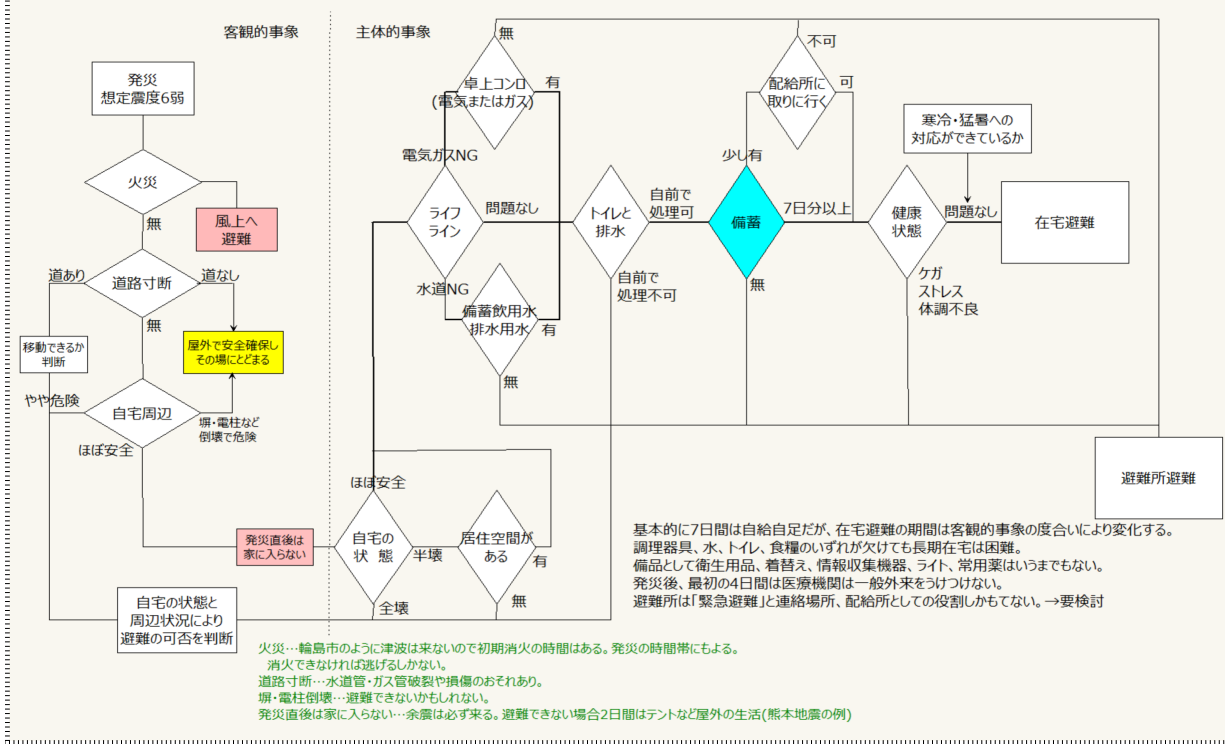
ハードル高い在宅避難

市や自治会の広報でも繰り返し七日分の備蓄をと呼びかけてきました。なぜなら大規模災害時には電気の復旧は最低でも一週間、水道は二週間、ガスは五週間と言われています。道路は寸断され、す

西町は五小や東北コミセン、六中を避難所としています。五小校区には二万人以上が居住し、は二万人以上が居住し、とうてい全員を受け入れることは不可能なのは明らかです。なので自宅の被害が少なければ在宅避難という手段が有効ですが、「在宅避難の流れ」が、在宅避難のハードルが高いものになっていきます。自宅が住めなくなると、能登ではビルやハウスに身を寄せ合つてしのいだというニュースを閲覧になったこととを思い出します。西町では自宅の庭やガレージで危険を避けてテント生活をするようになるかもしれません。それでも火災が起きていなければという前提のもとです。ライフラインが寸断され、救援が来な

在宅避難の流れ 2025/1/17自主防災部会

巨大地震がいつ起きるかではなく、起きたらどうするかを考える絶望は必ず訪れる……



火災→輪島市のように津波は来ないので初期消火の時間はある。発災の時間帯にもよる。消火できれば逃げるしかない。道路寸断→水道管・ガス管破裂や損傷のおそれあり。崩・電柱倒壊→避難できないかもしれない。発災直後は家に入らない→余震は必ず来る。避難できない場合2日間はテントなど屋外の生活(熊本地震の例)

備蓄品アンケート基本集計				2025/9/10					
地区	組	回答数	世帯数	回答率	自己評価50点未満	50~69	70~79	80~99	非常持出有り
A	2	11	14		8	2	1		10
A	3	4	20		1	3			4
A	4	7	14		4	3			5
A	5	7	9		5	2			3
A	6	4	10		3	1			3
A	14	3	9		2		1		3
A	15	1	14		1				1
A	16	9	34		5	3	1		3
A	不明	4	26		1	3			3
A地区計		50	150	33.33%	30	17	3		35
B	1	6	7		5	1			4
B	2	6	11		4	2			4
B	3	15	15		6	4	5		11
B	4	3	12		0	2	1		3
B地区計		30	45	66.67%	15	9	6		22
C	1	5	10		2	1		2	2
C	2	5	10		5				3
C	3	8	11		6	1	1		6
C	4	3	14		3				1
C	5	10	12		6	4			6
C	6	6	8		3	2	1		4
C	7	8	14		4	4			3
C	8	5	11		4			1	3
C	9	14	16		7	7			7
C	10	6	12		3	2	1		2
C	11	4	8		0	2	1	1	3
C	12	3	5		1	1	1		2
C	不明	2	0		1	1			0
C地区計		79	131	60.31%	45	25	5	4	42
全体		159	326	48.77%	90	51	14	4	99

基本情報なし(家族人数)のため計算できないものA地区1軒、C地区3軒あり集計から外した  
一人暮らし28軒 自己評価50点以上69軒 水・食糧50%以上ある14軒  
要介助者がいる12軒 ペットがいる26軒  
テントがある28軒 風呂の水張りしている36軒 バッテリーがある14軒 消火器がある38軒  
災害時とりきめしている59軒 ローリングストックしている58軒 広報みている41軒  
市の本みている60軒 サイレンの意味知っている57軒 訓練参加したことある54軒  
ボランティア可能51軒 支援なくても7日間暮らせる18軒

文芸コーナー 西の細道(8)

「九条」はこの国の護符終戦日  
入道雲蹴って男の子の逆上がり  
鼻っ柱折れてしまへり今年竹  
秋暑しいけず石置く曲がり角  
新山門くぐる涼しさ朝詣で  
細野喜世子



シャボン玉虹に輝やく夢の橋  
祈りつつ夜空に輝る天の川  
小刀で鉛筆削る懐かしさ  
鯉のぼり四年ぶりだよ舞い上がれ  
ほろ酔いで一句も詠めぬ洒落男  
万博に未来に通じる新創造  
赤白のコスモスそよぐ丘の上  
阪田 猛

炎天下崩れた化粧日本地図  
皮下脂肪く皮下水分で今は皮  
たまねぎで血液、心、サーラサラ!!  
傘寿まで手は届いたよ後は運  
上空のブルーインパルス大歓声  
六六六 慶

いことを考えれば水、食糧、トイレは必須で、七日間は最低ラインだといふことを肝に銘じていた。だいたいと思いません。つ来るかからない災害に備えるのではなく、災害がいつ来ても慌てない。この結果をふまえて年内に学習討論会を考えています。皆様のご意見をお聞かせください。  
(文責・藤井)